

# 4章

## さいわい トリビア! START



**目指せ全問正解! さいわい名人になろう!!**  
 幸区の名前の由来や、あまり知られていない面白小ネタなど、いろんなトリビア(クイズ)に答えて、楽しく幸区のことを知っていきよう!

正解数が...  
 0コ~1コ う~ん、出直し!  
 2コ~5コ まだまだ!  
 6コ~9コ さいわい初心者!  
 10コ~15コ さいわいモノシリ!  
 16コ~19コ さいわい上級者!  
 20コ さいわい名人!!

### コラム2

## 幸区の子どもたちが学ぶ地域のこと

幸区の小学校では、立地場所や周辺環境に応じて身近にある題材をうまく利用し、地域の人、自然、歴史、文化、なりわいなど、さまざまなことを知る学習を通して、子どもたちが地域のことを学ぶ機会を設けています。

1 学年ごとの取り組み 子どもの成長に合わせて、学年ごとに学習の内容やねらい(目標)の違いが感じられます。

- 1年生** 幼稚園や保育園などで園児と遊んだり、地域の方から遊びを教わるなど、地域と触れ合う。
- 2年生** まちたんけんといった地域のお店や施設に向かい、地域のことを自分の目で見て、知る。
- 3年生** スーパーマーケットや工場見学などで、買い物やものづくりなど、生活に関わることを調べる。
- 4年生** 警察署や消防署の人たちに話を聞いたり、二ヶ領用水の歴史など、周辺地域を知り、学んでいく。
- 5年生** 工場見学などでお仕事を調べたり、まちの安全マップをつくらたり、まちの良さを見つけている。
- 6年生** 戦争体験を地域の方に話してもらったり、外国籍の方からお話を聞いたり、見識を広くする。

2 各学校での面白い取り組み それぞれの小学校で行われている学習の一部をご紹介します。それぞれの地域の特色や特徴があることが感じられます。

**幸町小学校 「南河原公園でよろしく集会」(個別指導のクラス)**  
 公園でのお花見、植物の観察などを通して公共の場所でのマナーを身につけ、また、地域の公園を知ることで放課後の過ごし方の幅を広げることがねらいです。

**南河原小学校 「さんま祭り」(全学年)**  
 食育の一環として南部市場の方々のご協力を得ながら、家庭で「さんま祭り」を行っています。おやじの会の方々と一緒に七輪で焼きながら、秋の味覚を家族で楽しみます。

**御幸小学校 「御幸世界大使になろう」(6年生)**  
 地域に住む中国・タイ・韓国籍の方々から、それぞれの国の文化を紹介してもらい、その後、興味を持った課題について調べて発表し、国際理解教育を進めています。

**西御幸小学校 「見つけよう 知らせよう ぼくらの町のすてきな人たち」(3年生)**  
 老人会の方たちを学校に招待するなど、町に住む人々取材して、地域に住む方たちの思いに気づくなど、自分たちの町に愛着を持つようになっています。

**戸手小学校 「まちたんけん」(2年生・3年生)**  
 温泉施設「志楽の湯」、商店街、幸文化センター(市民館・図書館)などを見学し、インタビューを行いながら、町の良さを知る活動をしています。

**古川小学校 「もっと知ろう古川を」(5年生)**  
 地域の安全マップを作り、発表する活動をしなが、自分たちの住む町のことや昔のことを調べるにより、学校や地域の移り変わりを学びます。

**東小倉小学校 「町の人たちの仕事」(3年生)**  
 地域にある商店(マルエツ)を見学し、「販売」についての工夫を学んだり、工場見学により、「生産」についての園内外の結びつきを知ったりします。

**下平間小学校 「昔の暮らしと町づくり 調べよう物を作る仕事」(4年生)**  
 学校の目の前を流れている二ヶ領用水が作られた理由や想いを調べ、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや想いを考え、理解する試みをしています。

**古市場小学校 「昔のくらし」(3年生)**  
 地域の方々から寄贈していただいた、郷土資料室にある、昔の農機具や生活用品を実際に見たり、触れたりすることで、地域の昔の生活の様子を学びます。

**日吉小学校 「見つけよう 感じよう 公園の四季」(1年生)**  
 それぞれの季節に夢見ヶ崎動物公園に行き、自然の変化を実際に見て、感じ、楽しみながら関心を持ってもらうようになっています。

**小倉小学校 「町の昔を知ろう」(3年生)**  
 地域の人々が受け継いできた文化財や古い道具などについて調べ、昔から今に至る歴史を学び、よりよい発展について考える機会としています。

**南加瀬小学校 「大昔の暮らし 戦争から平和へ」(6年生)**  
 白山古墳・南加瀬貝塚・秋草文彦など、地域における歴史的な遺物・建造物などを調べ、地域に存在した大昔の暮らしや生活を知ります。

**夢見ヶ崎小学校 「みんな安心 ゆめみのまち<福祉>」(4年生)**  
 特別養護老人ホーム夢見ヶ崎と連携し、お年寄りの方たちとのふれあいを通して、地域のバリアフリーの状況などの安心なまちづくりについて考えます。



## Q16

幸区には県の指定無形民俗文化財に指定されているものがありますが、何でしょうか？

- ① 沖縄民俗芸能
- ② 小向の獅子舞
- ③ お馬流し

## Q17

二ヶ領用水の「二ヶ領」とは、どこと、どこをさすでしょうか？

- ① 世田谷領と六郷領
- ② 稲毛領と川崎領
- ③ 川崎領と六郷領

## Q18

かつてあった、小倉池にまつわる伝説と関わりの深いお寺はどこでしょうか？

- ① 了源寺
- ② 妙光寺
- ③ 無量院

## Q19

白山古墳から金属でできた丸いものが発見されました。それはなんだったのでしょうか？

- ① 鏡
- ② 盾
- ③ 楽器

## Q20

幸区の区名の由来は、旧御幸村の村名と、もう一つあります。それは一体何でしょうか？

- ① 「幸多い」地域という願い
- ② 初代区長名が「幸市（こういち）」
- ③ 真田幸村が訪れたという噂

## Q11

ラゾーナ川崎プラザにある分社は、全国的に有名な神社のようですが、どの神社でしょうか？

- ① 巖島神社
- ② 稲荷神社
- ③ 出雲大社

## Q12

明治初期、御幸村にできた工場が造っていた、建物に使う材料はどれでしょうか？

- ① コンクリート
- ② レンガ
- ③ 和紙

## Q13

幸区役所ができる以前、そこには何があったのでしょうか？

- ① 市場
- ② 浄水場
- ③ 大きな池

## Q14

市電通りは地元で通称「プール道路」と呼ばれますがなぜでしょうか？

- ① 近くに市営プールがあった
- ② 有名水泳選手が近くに住んでいた
- ③ プールのように水がたまっていた

## Q15

明治天皇が小向に行幸（外出すること）された目的は何だったのでしょうか？

- ① 加瀬山に登るため
- ② 梅を観るため
- ③ 多摩川で泳ぐため

## Q6

貝塚があったその昔、加瀬山のまわりはどんな場所だったのでしょうか？

- ① 山
- ② 海
- ③ 湖

## Q7

区東部を横断するようにあるさいわい緑道は、整備以前、どのような場所だったのでしょうか？

- ① 鉄道
- ② 用水路
- ③ 防火帯

## Q8

幸区のシンボルマークはどれでしょうか？



## Q9

昭和のころ、東洋一と称された、物流拠点の名前は何でしょうか？

- ① 川崎駅貨物線
- ② 川崎河岸線
- ③ 新鶴見操車場

## Q10

加瀬山の西端の白山古墳の裾部から出土した、川崎市唯一の国宝の陶器は？

- ① 曜変天目茶碗
- ② 秋草文壺
- ③ 仁清壺

## Q1

皆さんが暮らす幸区ができたのはいつでしょうか？

- ① 明治 5 (1872) 年
- ② 大正 12 (1923) 年
- ③ 昭和 47 (1972) 年

## Q2

平地の続く幸区の中で、ひょっこりと頭を出している加瀬山。標高はおよそ何mでしょうか？

- ① 15m
- ② 35m
- ③ 55m

## Q3

都町にある南河原公園は、元々どのような場所だったのでしょうか？

- ① 沼や畑
- ② 山
- ③ 工場

## Q4

川崎駅西口にある「ミュージア (MUZA) 川崎」というビルの、名前の由来はなんなのでしょうか？

- ① 文芸の女神ミューズ
- ② ミュージック + 座 (ZA)
- ③ The μ (市内12番目の公共施設)

## Q5

幸区の北側を流れる多摩川は、全長何kmでしょうか？

- ① 38km
- ② 88km
- ③ 138km



## A17

江戸時代に完成した、かつては農業用の用水路であった二ヶ領用水は、完成した当初、稲毛領37ヶ村、川崎領23ヶ村に水路を巡らせており、これら2つの領地を意味する名前がつけました。

### ② 稲毛領と川崎領

## A18

現在の小倉小学校のあたりに昭和27(1952)年まであった小倉池には、伝説があります。

正月の「まゆ玉」を作るために、「ねこやなき」の枝を切りにほとりにいきました。枝を切ろうとしたところ、斧を水中に落としてしまいました。あわてた農夫は、斧を取ろうとして思わず足を滑らし水中に、気がつくやいなや立派な御殿の中。美しい女性たちに囲まれて、夢のような何日かを過ごし、地上に戻る。帰りに宮殿の王様(龍王)から三枚の鱗をもらい、地上に戻りました。三枚の鱗を無量院の本堂脇の灯籠に入れておきました。やがてある日の晩、その灯籠から龍が火となって、近くの松の木から天に昇っていきました。

この伝説にちなんで、無量院の龍燈観音は今でも大切に保管されています。

### ③ 無量院

## A19

白山古墳から、三角縁神獣鏡と呼ばれる鏡が見つかりました。京都府や山口県・福岡県でも出土しているもので、豪族が大和朝廷に貢物をした際のお返しとして朝廷から賜ったものです。この地の豪族が朝廷と強い繋がりを持っていたことを示しています。

### ① 鏡

## A20

明治17(1884)年に明治天皇が小向梅林に行幸(御幸)したことにちなむ「御幸村」の村名と、「幸多い」地域という願いから「幸区」と名付けられました。「幸せ」の区、良い名前ですね!

### ① 「幸多い」地域という願い

## A11

ラゾーナ川崎プラザの屋上緑地には、鳥根県出雲大社から大正5(1916)年に分祀された分社があります。旧東芝堀川町工場から移設されました。

### ③ 出雲大社

## A12

明治21(1888)年、御幸(横浜)煉瓦製造所が、ドイツから輸入した製法を導入し、レンガの生産を開始しました。製品運搬の便から、多摩川の水運を利用するための河川敷に工場が建設されました。

### ② レンガ

## A13

幸区役所や幸文化センターなどの公共施設が集まる土地には、かつて広大な面積を誇る戸手浄水場があり、市民の生活の要となっていました。

### ② 浄水場

## A14

旧国鉄の線路下を抜ける、工事中のトンネルに、プールのように水がたまってしまうため、この名前と呼ばれています。

### ③ プールのように水がたまっていた

## A15

明治17(1884)年、川崎から現在の府中県道沿いに小向(現在の御幸公園)に観梅に行幸されました。

### ② 梅を観るため

## A16

県の指定無形民俗文化財に指定された小向の獅子舞は、「大獅子」「中獅子」「女獅子」の3頭に「仲立ち」が加わって舞う、1人立ち3頭形式の獅子舞です。

### ② 小向の獅子舞

## A6

貝塚があった縄文時代は、海進により他の幸区域は海で、現在の加瀬山周辺だけが島のようになっていました。

### ② 海

## A7

多摩川上流の砂利を運搬することを目的に、南武鉄道川崎河岸線が、矢向駅から多摩川のほとりにあった川崎河岸駅まで延びていました。

### ① 鉄道(貨物線)

## A8

幸区のシンボルマークは、頭文字「S」と無限大のマークをイメージしています。二つの輪は、区民の深いつながりと伸びゆく情報発信を表し、地域の温かい人情と未来都市への無限の可能性にあふれた区(まち)を象徴しています。

ちなみに、設問の①は川崎市のシンボルマーク、②は「音楽のまち・かわさき」のロゴマークでした!



## A9

「東洋一」と称され、日本の輸送の要となっていた新鶴見操車場は、昭和5(1930)年に開業しました。加瀬山西麓の丘陵部を切り崩し、湿田地を大規模に埋め立てて、造成されました。

### ③ 新鶴見操車場

## A10

白山古墳の後円部の裾から発掘された秋草文壺は、外面に秋草やトンボなどの文様が軽やかに描かれています。陶磁器の国宝第1号に指定されています。陶磁器の国宝は、日本でも数少ないのですよ。

### ② 秋草文壺

## A1

昭和47(1972)年に川崎市が政令指定都市になったと同時に、幸区は誕生しました。川崎市内唯一の動物公園である「夢見ヶ崎動物公園」もその時に開園しています。

### ③ 昭和47(1972)年

## A2

区西部に位置する加瀬山の標高は、約35mですが、昔からその高さだったわけではありません。大規模工場や新鶴見操車場の土地を嵩上げするため、山の一部が切り崩されたこともあり、今の高さになっています。

### ② 35m

## A3

昔の多摩川は今のような緩やかな流れではなく、現在の川崎駅やさいわい緑道、古市場緑道のあたりを大きく蛇行していました。南河原公園のあたりもその流路だったため、低地となっており、雨水がたまるなどしたことで、沼ができました。

### ① 沼や畑

## A4

音楽の「MUSIC」と、古来より人が集まる場所を表す「座」=ZAの合成語で、川崎の新しい情報発信の場となって欲しいという願いが込められ、名付けられました。

### ② ミュージック + 座 (ZA)

## A5

多摩川は、奥多摩湖の湖水出口にある小河内ダムから始まり、幸区の北側を流れ、東京湾に注ぐ、全長138kmの一級河川です。

### ③ 138km



大型ショッピングセンターの増加や、近年の共働き家庭の増加などに伴い、商店街も昔ながらの姿から変わりつつあります。時代の変化に対応しながら活動している商店街の取り組みをご紹介します。

## 商店街

【幸区の商店街について】幸区にある14の商店街は、「商店街連合会」という、商店街同士が連携し振興を進める組織に所属しています。幸区には「幸商店街連合会」と、「日吉商店街連合会」という2つの商店街連合会があります。それぞれの商店街連合会で、特徴的な活動をしている事例をご紹介します。

### 地域とふれあいながら、被災地の支援も 幸商店街連合会

幸商店街連合会は、現在8つの商店街が加入しており、地域との関わりとして、街灯の管理や、チューリップの球根を商店に配ってまちに花を飾ってもらうといった美化活動に取り組んで、地域の方々に喜ばれています。

また、平成23年3月11日に東北を襲った東日本大震災後、新たに被災地の商店街を支援する事業も始めました。毎年、幸区民祭には幸商店街連合会として出店していますが、平成23年の区民祭で行ったのは、被災地である宮古市の海産物やサンマ汁の販売。500食作れる鍋を借りての料理は大変だったそうですが、好評の声を多く頂いたそうです。なお、区民祭での海産物の売上金822,010円は宮古の被災商店の方々に、さんま汁の売上金と市民

の寄付金の合計219,158円は岩手県漁業組合連合会に、10月31日それぞれ送金しました。（総額40区民祭で焼いたサンマは人約計1,041,168円）。



【団体から】「来年も地域の美化活動など引き続き行なうつもりです。今後、時代の変化に合わせて、町内会・自治会などの地域団体と一体的に活動できるように変えていくことができないだろうか？と考えています。そのためにも、地域に納得してもらえる団体として活動していければと思っています。」

### 地域交流と商店街の特色づくりを 日吉商店街連合会

日吉商店街連合会は、現在6つの商店街が加入しており、地域の状況に応じた活性化のあり方について日々考えながら、さまざまな活動を行っています。住民との交流を目的とした取り組みとしては、昭和57年から参加している「地蔵尊祭」があります。平成23年の「地蔵尊祭」では、新興住宅に住む若い世代の方々向けにス



日吉まつりには大勢の方が訪れます。また来てもら

うきっかけづくりを行いました。また、地域の大きなイベントである「日吉まつり」には、第1回日の企画づくりから関わっています。第39回を迎えた平成23年は、無料のシャトルバスを出し、会場である夢見ヶ崎動物公園と、鹿島山駅や日吉出張所などを繋ぎました。

【団体から】「今後も地域密着の発想を大事にして、加入している各商店街がイベントや特産品など特色を持てるように考えたいです。大手スーパーやコンビニと、共存・共栄の精神でコミュニティを通した社会貢献を重ね、商店街の異なる発展と活性化のために取り組んでいきたいです。」



商店街



福祉



子ども



緑と水



文化



スポーツ



安全・安心

# 5章 みんなでつくる わがまちさいわい

わたしたちのまちには、暮らしやすいまちを自分たちの手でつくっていきこうと活動している方々がたくさんいます。

第5章では、ほんの一部となってしまいましたが活動している方々にスポットを当て地域の課題解決やよりよいまちづくりのために取り組んできた姿や想いをご紹介します。

皆さま一人一人にとっての“幸区”をあらためて見直すきっかけにしてみませんか？

5章 みんなでつくるわがまちさいわい

5章 みんなでつくるわがまちさいわい



## 広げよう 地域に根差した 思いやり

幸区民生委員児童委員協議会

【民生委員・児童委員について】子どもからお年寄りまでの福祉や、地域の生活困窮者、心身障害者の福祉などについて、関係機関との連絡を図るボランティアで、厚生労働大臣から委嘱を受けています。

民生委員・児童委員は、地域福祉の増進を目的に、高齢者の見守りや災害時に備えて福祉マップ作りをしたり、子育て支援として地域の子育てサロンや、イベントなどの参加のほか、こんにちは赤ちゃん訪問事業などへの協力をしたりと、さまざまな活動を行っています。「幸区民生委員児童委員協議会」の取り組みは、

そのような民生委員の活動を円滑に進めるために、区内8つの「地区民生委員児童委員協議会」の連絡調整や、委員の資質向上のための研修会などを行うことです。

幸区はマンションの増加とともに住民が増えています。新旧住民が互いに手を取り合う地域社会とするために活動を進めています。

## 食を通して健康を考えたい

幸区食生活改善推進員連絡協議会（ヘルスマイト）

【食生活改善推進員（ヘルスマイト）について】「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに、地域の中で食生活改善を通じた健康づくり活動を行うボランティアです。

ヘルスマイト 幸は、妊産婦、乳幼児期、学童期、成人、高齢者などを対象に健康づくり活動をする会です。平成20、21年度には、「提案型協働推進事業」として、同世代の男性を対象とした料理教室を実施しました。料理したことのない男性が料理の基本を学び、スーパーで買い物をしたり、食材の選び方をマスターして、

簡単な一食分の料理をつくることで、食の自立と高齢者の健康づくりを図り、セカンドステップへの橋渡しをすることを目指し、現在も継続して支援をしています。



同世代の男性の料理教室

## 運動を通して元気な人がいっぱいの幸区

幸区運動普及推進員の会（ヘルスパートナーさいわい）

【運動普及推進員（ヘルスパートナー）について】自分の健康づくりはもちろん、地域の方が『いきいきハズラン』と健康であり続けるために活動している運動ボランティアです。

ヘルスパートナーさいわいは、保健福祉センターが実施しているボランティア養成講座の修了生が集まって作った会です。

お子さんからご年配の方まで、地域の皆さまに健康づくりの大切さや運動の楽しさを広める

ことを目指します。

区役所の前庭など、さまざまな場所で区民の方と一緒に楽しく体操しています。



青空の下で楽しく体操

## 地域ぐるみで障害者の地域生活を支援

幸ヒューマンネットワーク

【社会福祉法人 幸ヒューマンネットワークについて】精神障害を持つ方の地域生活を支援し、障害を持つ方も持たない方も安心して暮らせるまちづくりを目的に、地域の方々のご協力を得ながら活動をしています。

「精神障害者の方は退院してから地域で生活する場がない」という課題がきっかけで、住居と生活を支援するグループホームの運営を始めました。他に、憩いの場であり就労・生活訓練の場である地域活動支援センターの運営や、日常の悩みや福祉サービスの相談支援も行います。

町内会・自治会、社会福祉協議会、民生委員、商店街、不動産屋などに相談・協力を求めている中で、地域の方たちの支援を得られるようになったそうです。人との繋がりの中で、その人らしい生活を送れるまちづくりを目指して、取り組みを進めています。



障害の有無や年齢に関わらず、すべての人が家庭や地域の中でその人らしい安心できる生活を送れるように、地域に根差して福祉の支援を行っている活動団体の取り組みをご紹介します。

## 地域が力を合わせ福祉を実践

川崎市幸区社会福祉協議会・各地区社会福祉協議会  
小倉の駅舎 陽だまり・塚越の陽だまり

【社会福祉協議会（社協）について】安心して、住み慣れた場所で過ごしたい！地域福祉をもっと充実させたい！という願いを、地域に住む人が力を少しずつ出し合って実現するためにつくられた組織で、社会福祉法第9条等に位置づけられています。幸区には、「社会福祉法人 川崎市幸区社会福祉協議会（区社協）」と、それとは別に身近な7つの地域ごとに設けられた「地区社会福祉協議会（地区社協）」があります。地区社協は、主に町内会・自治会、保護司、民生委員・児童委員、社会福祉に関する団体等によって構成され、地域に密着したさまざまな福祉活動を行っています。

### 地域のボランティアの協力で会食会を開催

地区社協の事業の一つに、「さわやか活動」があります。これは、いこいの家、または、さまざまな会館で、一人暮らしの高齢者などを対象に会食会を行うものです。地域のお母さん方がたくさん量の料理を作るなど、地域の方々の協力で取り組みを進めています。

### 児童や障害者と一緒に活動も



多くの方が参加する会食会

会食会は各地区で実施していますが、区内で最も高齢化率の高い河原町団地では、河原町地区社協が年6回、一人暮らしの高齢者に向けた会食会を開催し、100人近くが参加しています。準備は前日から30名以上のボランティアによって行われる大規模なものです。春の花見と、秋の芋煮会は地区社協の他の部会と合同で開催しており、高齢者と障害をもった方、幼児とその親といった、さまざまな世代の触れ合いの機会として親しまれるイベントです。

### 気軽に集まり、顔見知りができる拠点を

区社協の特徴的な事業の一つが、子どもからお年寄りまで、誰もが利用できるような住民交流活動拠点事業です。

現在の設置は2カ所で、どちらも町内会や地

域の色々な団体に参加を呼びかけたり、趣味の教室を開催したり、季節毎にイベントを開催するなど、多くの人に利用されています。



「小倉の駅舎 陽だまり」 真剣に取り組み手芸教室は、小地域住民活動の拠点として、平成19年に開設されました。地域内での交流だけではなく、商店街の空店舗を活用することで、買い物客が減少している商店街に人を集める目的があることも特徴です。利用者が帰りに商店街で買物ができるようにお店のチラシを置いたり、飲食店から出前をとって「陽だまり」で食事できるようにするなど、商店街と連携しています。このような活動を地道に続け、現在は1,000人以上の会員が集まるまでになりました。「塚越の陽だまり」は、これまで住民が集まったり、活動したりする拠点がなかった塚越地区に、住民同士が交流できる場を持ちたいという目的で、平成22年に開設されました。その際には、同じ年にオープンした「さくらの公園」があり、一緒に活用しながら、乳幼児から高齢者までが安心して集える場所づくりを進めています。

【団体から】「社会福祉協議会として、さまざまな事業を行っています。実際の福祉は、地域の方々やボランティアで活動してくれる現場の人たちの力に支えられていると感じます。」



【幸区赤十字奉仕団について】奉仕団の使命とする「人道・博愛」の精神のもと、「人にやさしく、思いやりと奉仕の心」を大切にしながら、「献血活動・災害時の救護応急手当指導・高齢者福祉・子育て」等の奉仕活動を行っています。ここでは幸区で始まった活動に着目して子どものテーマでご紹介します。

幸区赤十字奉仕団の活動の一つである「あかちゃん銭湯でコンニチワ！」は、子育て中の親子に目を向け、世代を超えた人間関係を深める場として活動を始めました。0～3歳児と母親に、社交の場である銭湯で入浴してもらい、母親



銭湯で集って、楽しく交流

同士の交流を促す活動です。親子遊びのアド

バイス、体操などを交えつつ、子育てで大変なお母さん方への、ちょっとした手助けになることを望んでいます。

【団体から】「高層住宅が増えることで生活環境が変わっていますが、災害時のネットワークや、日々の暮らしの原点は世代を超えた地域コミュニティの場にあります。共に助け合える人間関係を築けるよう、地域づくりに力を入れ、安全、安心の町になるといいですね。」

誰もが気軽に子育てに参加し集まれる場を

【子ねっと幸について】幸区を中心とした地域に住んでいる子育て中の人、地域の子どもが気になる人たちがスタッフとして地域で子育てする環境づくりのお手伝いをしています。

子育て中の親子の出会いのきっかけづくりとして子育て広場の開催や子育て情報誌「オ・パルキ」の発行を行い、15年が経ちました。

現在、南加瀬子ども文化センターで、お父さんの参加も大歓迎の「パパッとサタデー広場」を開



自由に楽しく遊びます

いています。運動会や、ミニコンサートなどのイベントも交えながら、自由な雰囲気の中で親子が交流できるよ

う活動しています。また、平成12年に発行した初版「おこしまっぶ」は、「幸区にも子育て情報誌があったらいいね。」というお母さんスタッフのつぶやきが始まりでした。

その後、形を変えながら版を重ね、平成16年からは、幸区の発行物となって、編集委員の一員として冊子づくりに関わっています。

【団体から】「お母さん以外の人も気軽に子育てに関わると良いですね。この子育て広場が、地域につながる井戸端会議のような場になると嬉しいです。」

子どもたちが自由に豊かに遊び育つ環境を

【夢見ヶ崎プレーパークについて】子どもたちが豊かに遊び育つ環境となることを願って、「子どもが主体的に、自由に遊べる場」をつくること、また、「地域の大人・子どもが集まり、交流できる場」をつくることを目指して活動しています。

子どもたちが、もっとのびのび遊べる場をつくるうと、地域のお母さんたちが集まってつくったグループです。子どもの「やってみよう」という気持ちを大切にしながら、現在「さいわ



穴掘りや泥遊びを楽しみます

いふるさと公園」で、プレーパークを毎月第3日曜日に開催しています。木工作、穴掘りや泥遊びなどを子

どもたちは体いっぱい楽しめます。ことも支援室と協働で、乳幼児と保護者を対象に「出張青空子育てひろば・おでかけほかほか」を開き、3カ所の公園を巡回しながら「外遊びの楽しさ」を伝えているそうです。

【団体から】「幸区で育つ子どもたちが、地域のさまざまな人と触れ合い、見守られながら、ありのままの姿でのびのびと過ごせるようなまちにしたいです。」

地域全体で、安心して子どもを生み育てたり、子どもたちが健やかに成長することができる環境にしていくために、地域で行なわれている取り組みをご紹介します。



子どもの健やかな育成と地域への愛着づくり

【幸区子ども会連合会について】さまざまな年齢の子どもたちが集まり、スポーツや文化活動を通じて、社会性を学びながら心身の成長発達を促すことを目的に、幸区における各子ども会で組織される団体です。

【子ども会について】地域にいる子どもたちの健全育成を目的として、区内で45団体の子ども会が活動しています。清掃活動など社会奉仕活動なども行っています。

「子ども会」で、さまざまな年齢の子どもとの交流や企画を通して健やかな育成を

幸区子ども会連合会は、児童文化の向上や、明るく朗らかな子ども社会をつくっていくことと、併せて子ども会の育成者の資質向上を目的として活動しています。

主な事業は、子ども会連合会が主催する、野球、ドッジボール、バレーボール、羽根つきなどの大会の開催、書き初めやちぎり絵、絵画などの作品展などの文化的な取り組み、子ども会の指導者の育成を目的とした研修会などです。

地域における子どものリーダーを育成するリーダー研修会は、各地域の子ども会に所属する小学生が、野外炊飯でのカレーライス作りや、八ヶ岳研修など、学校や家庭では学ぶことのできない貴重な体験です。研修会は、中学生・高校生によるジュニアリーダー「たんぼぼ」をはじめ、さまざまな年齢の子どもたちが交流をする機会でもあります。

連合会に加入している子ども会は、現在、7地区45団体です。



自然した羽根つき大会

地域の中で大人が子どもを育てる場として

各地域の子ども会では、野球大会、ドッジボール、プール開放などのスポーツ行事や、節分などの地域のイベントのほか、地区の清掃活動などの社会奉仕の活動を行っています。これらは、子どもたちを地域の中で健全に育てることが目的の活動です。

こうした活動は、「子どもの組織」と、子ど

もを指導する大人による「育成組織」の2つがセットとなり、活動しているようです。

子ども会の運営は会員からの会費を中心にして運営しているケースと、町内会・自治会の組織として活動しているケースがあります。

町内会での新たな取り組み

ここ数年、「子ども部」として町内会・自治会の組織に位置づける試みも始まっています。ねらいは、町内会に加入している子どもたち全員を対象に、行事に参加してもらえるようにすることです。町内会には子どもがいない世帯もあるため、「地域全体で子どもたちを育てよう」という意識が不可欠だそうです。

現在、古市場町内会の子ども部では、子どもたちが地域行事に多く参加してくれるように、呼びかけを工夫しているそうです。

塚越三丁目の子ども部では、ひな祭り、七夕祭、納涼踊り、ラジオ体操、町内祭礼山車、運動会、餅つき、クリスマス会などを、幼児から小学生までできるだけ多くの子どもが参加するよう一年を通して行事を行っています。子どもが元気な姿は、地域の高齢者の気持ちも明るくし、若いお父さんお母さん方の町内会活動への理解も深まるきっかけになるのではないかと、町内会の方々は期待しているとのことです。

【団体から】「各地域で取組む形はさまざまですが、どの地域でも、子ども会での活動を通して、子どもに、子ども同士のつながりや大人とのつながりを得てもらい、大人になって地域を支える存在になってほしいという思いは一緒です。」

幸区 みんなでつくろうがまちさいわい

幸区 みんなでつくろうがまちさいわい



## 加瀬山に緑豊かな種を増やすために

幸区市民健康の森「さいわい加瀬山の会」

【市民健康の森について】身近な緑の保全・緑化の推進や、健康とレクリエーションの場づくりなどを目的として、川崎市の7つの区に1ヶ所ずつ設置されています。

「さいわい加瀬山の会」は、幸区の「市民健康の森」に指定された夢見ヶ崎公園の緑を守り育てるために、区民の方々により設立された団体です。作業を毎月3回、定例会議を1回行っており、加瀬山に緑豊かな種を増やすことを目的に、樹木の剪定、花壇の整備、下草刈りなどの作業を行いながら夢見ヶ崎公園の手入れをしています。



手入れは手慣れたもの

【団体から】「市民と行政との連携を大切にしながら、『さいわい加瀬山の会』の活動を皆さんに知ってもらい、地域市民による緑保全の実践活動への参加や、支援・協力を得たいと考えています。また、遊びを通じた地域温暖化対策やライフスタイルのスロー化などの環境問題の教育が、触れ合える『市民健康の森』の末永像であり、次世代への子どもたちへのメッセージになると思います。」

## 歩きたくなる花と緑の道

さいわい緑道西地区 管理運営協議会

【管理運営協議会について】市民と行政の協働により公園の管理運営を進め、公園を地域コミュニティの場として活用することを目的に、公園利用者や町内会などの方々に組織されています。幸区では、平成24年1月現在、68団体の管理運営協議会が各公園の管理を行っています。ここでは、管理協定を区内で初期に結び、活発な活動をしている「さいわい緑道西地区 管理運営協議会」をご紹介します。

さいわい緑道は、昭和40年代まで走っていた貨物線「川崎河岸線」の跡地が緑道になった場所です。緑道が出来た当初は手入れが不十分で雑草が覆い茂り、粗大ゴミ捨て場となっていました。そこで緑道を町内会が管理運営できる



四季折々の花を楽しませます

ように、川崎市、幸区、神明町町内会の三者による自主管理協定を結んだのが活動の始まりです。現在は20数名で3,000㎡

の広さ(花壇の広さ 670㎡)を管理しています。地元の神明町町内会でも、定期的に清掃などを行い、住民による維持管理をしています。また、薔薇の花が満開になる季節に開催する「ばら祭り」は、町内会の一大イベントで、毎年大賑わいです。長年の活動が認められ、「みどりの愛護」の国土交通大臣賞をはじめとして、数々の賞を受賞しています。

【団体から】「幸区全体が、住みよい緑豊かな地域になることを願っています。」

## 川で遊び、楽しみながら川を守り育てる

矢上川で遊ぶ会

【矢上川で遊ぶ会について】鶴見川水系矢上川の自然に触れ、体験・観察を通して自然・生き物の大切さを認識し、矢上川の保全に取り組む人を育てることを目的に活動しています。

矢上川で遊ぶ会は、川と親しみながら川辺の野草、うなぎ、魚、野鳥などの自然観察、クリーンアップやハゼ釣りなどの体験活動、水辺の生き物が暮らす場所の保全活動を行っています。また、力を入れている取り組みが、小学校の子どもたちに向けた、川の環境学習の支



川に親しむ体験活動

援です。小さい時から自然の楽しさに親しみ、環境に興味を持ってもらうことが目的です。鶴見川流域の市民団体や幸区H古地区の市民団体とのネットワークにも参加し、足元の自然や文化を育てる取り組みを進めています。

【団体から】「川を子どもたちの環境学習の場として守り、周辺の文化、人の交流も大事にしていきたいです。」



幸区では、再開発が進み、ビルやマンションが増え、新しい住民も増えるなど環境が変化しています。そのなかで、水と緑のある身近な自然環境を大切に守り育てている取り組みをご紹介します。

## 植物を育てることを通して豊かな心を育む

南河原小学校

南河原小学校は校内に多くの種類の木や畑があり、学年ごとに柿、みかん、キウイ、菊、梨、お茶などを育てていることが特徴です。この活動には、菊作りの名人をはじめ、いろいろな方々の協力を得ています。そのほかにも、各学年の児童で構成された班で大根の栽培をする「たてわり活動」も行われているそうです。

また、園芸委員会の特徴的な活動が、コンポスト(給食の食べ残しや野菜のくずを生ゴミ処理機に入れて作る肥料)作り。毎週火曜日の中



大根は給食のおでんに

休みに、委員が生ゴミ処理機から、おがくずのような肥料のもとを取り出して、ふるいにかけて、寝かせて作る肥料です。できあがった肥料

は、学校の畑で使ったり、バザーの時に地域に無料で配布しています。

子どもたちは、植物を育てる中で、収穫の喜びを味わったり、友達と協力する大切さを学んだりしています。また、暑い日差しの中でも雑草取りを一生懸命行うなど、真面目に辛抱強く働く生活習慣が身に付いている子どもが多いと感じる先生もいるそうです。

収穫した大根を給食のおでんの具材として食べたり、収穫した梅でジュースをつくらしたりと、植物を育てることが、食について考える習慣や食に関するさまざまな知識を楽しく身に付けるための学習につながります。



学年の混じった班で育てます

## 区民が手掛ける花いっぱいのまちづくり

さいわい花クラブ実行委員会

【さいわい花クラブ実行委員会について】「花と緑のさいわい」を合言葉に、区民ボランティアの方々が、行政との協働のもと、花に彩られた潤いある憩いのまちづくりを進めています。

さいわい花クラブ実行委員会の活動は、区役所の前庭や大師堀公共花壇への花植えや手入れ作業を中心とした、地域の緑化活動です。

JR 鹿島田駅近くの大師堀公共花壇では、下平間小学校の子どもたちと協力して花植えを行っています。この大師堀公共花壇の活動は、



子どもたちと協力して花壇を

花壇が学校のすぐ近くにあり、子どもたちに身近な場所の緑に関心を持ってもらいたいという思いから始まりました。子どもたち・区

民ボランティア・区役所が協力して花植え作業を行うことで、子どもたちが緑の大切さを学ぶとともに、区民同士の世代を超えて交流するきっかけにもなっているそうです。

「あおぞら花市」は、花と緑をテーマとしたコミュニケーションの場づくりを目指して、毎年秋に区役所前庭で開催しているイベントです。さいわい花クラブ実行委員会は、この企画運営を担い、寄せ植え体験講習会や花苗・園芸用品のフリーマーケット、市内企業による花苗やコンポスト肥料の配布などさまざまな催しを行っています。毎回多くの人を訪れる、にぎやかなイベントです。



## 文化の発展のために

幸サークル連絡協議会・幸区文化協会

【幸サークル連絡協議会について】区内で自主的な文化活動をしているサークル・地域作業所・ボランティアグループが参加して、情報交換や交流を目的に活動しています。

【幸区文化協会について】お茶や生け花、唄や踊りなど、さまざまな文化活動を振興して、市民文化を向上させることを目的として活動しています。

### 人をつなぎ、生涯学習の一翼を担う活動を

幸サークル連絡協議会は、幸市民館を主な活動場所として区内で自主的な文化活動をしているサークル・地域作業所・ボランティアグループが運営しており、現在55のサークルが参加して連携を取り合っている団体です。

例年3月に、1年間の活動発表の場として幸市民館を会場として開催しているのが「幸文化センター祭」。大ホールの舞台での発表（ダンス・コーラスなど）や、絵画・書道・切り絵をはじめとする盛りだくさんの作品展示があり、見応えある「お祭り」です。皆で作る「お祭り」なので、準備段階から各サークルが協力しながら取り組んでいます。

【団体から】「たくさんの方々をつなぐ出会いの場となり、生涯学習の一翼を担う幸サークル連絡協議会でありたいと思っています。」

### 文化の向上と継承に向けた活動を

幸区文化協会は、伝統文化の継承と、文化芸術や市民文化の向上のために活動しており、今年で創立32年目になります。洋楽、展示、芸能の3部門からなり、地域に根差した活動を行っています。毎年秋に開催する「幸区文化祭」は、各部門のサークルが口頃の朝さん・努力の成果を発表する文化協会の最大のイベントです。他にも、幸区民祭での舞台や展示部門での参加協力や文化講演会の開催、夏休みを利用した子ども体験教室など、多様な活動で幸区の文化向上と発展に努めています。



口頃の成果でもらえし

【団体から】「これからも幅広い文化活動を通じて、文化の香り高い、魅力あふれるまちづくりに貢献してまいります。」

## 音楽を介して明るいまちに

幸区役所夢こんさあと実行委員会

【幸区役所夢こんさあと実行委員会について】幸区内の身近な場所でコンサートを行い、良質な音楽の生演奏を区民の方々に提供し、憩いのひとときを過ごしてもらおうと共に、音楽のまち・かわさきを推進することを目的として活動しています。

「音楽を通して憩いのひとときを」と、現在は、幸市民館大会議室と日吉合同庁舎1階タウンホールなどを中心にして、お昼休みに定期的に年8回程度、気軽に生演奏を楽しめるコンサートを開催しています。幸区役所と区民のパートナーシップにより平成9年9月から始め、継続して音楽に親しめる環境づくりを目指します。

一方で、平日の昼休みに定期的開催するのでは、聴きに来られる方には限りがあります。そこで、出張コンサートを考え、企業のロビーを借りたり、子育てのお母さんにも良い音楽を聴いてもらう機会をつくり、多くの方が楽

しめる野外コンサートを開催したりして幸区の皆さんに知っていただけるように工夫しています。



ロビーでも素敵な生演奏を楽しめる

平成23年6月には開催100回を迎え、それを記念したコンサートが平成24年1月に、幸市民館の大ホールで開催されました。

【団体から】「幸区のまちが、芸術のかおりのするまちになればいいなと思います。まちなかでアーティストがヴァイオリンを奏でている、そんな雰囲気似合うまちになるといいですね。」

豊かで潤いのある暮らしのために、昔ながらの文化を継承したり、新しい文化を創出しつつ、住民同士の交流を進めている取り組みをご紹介します。

## 文化・スポーツ



## スポーツを通して人との絆づくりを

幸区リレーカーニバル実行委員会

【幸区のスポーツ関係団体とその活動について】幸区のスポーツ関係団体には、幸区スポーツ活動連合振興会、各地区のスポーツ活動振興会や、野球、サッカー、バレーボールなどをはじめとするそれぞれの競技団体などが、大会の運営を行うなど、区民のスポーツ振興と交流のために活動しています。その中で、他区にはない幸区独自の行事である幸区リレーカーニバルをご紹介します。

幸区リレーカーニバルは、幸区民祭実行委員会、幸区スポーツ活動連合振興会などが主催している、一日リレーだけで盛り上がる、区民の大運動会ともいえるイベントです。

この行事は、青少年の非行防止や健全育成のために昭和48年に始まったもので、次第に参



加者の輪が広がり、大人から子どもまで楽しめる地域交流の行事となりました。

現在は、参加者や

とことんリレーで盛り上がり、運営を合わせて、約

1,000人、応援も含めると3,500人を超える区民が集まるなど、毎年、大盛況です。

平成23年度は41チームが参加して、他の町内会の選手も応援するなど、和気あいあいと行われました。

幸区町内会連合会、幸区スポーツ推進委員連絡協議会、幸区青少年指導員連絡協議会、幸区子ども会連合会、幸区PTA協議会が中心となって実行委員会を運営し、社会福祉協議会などが後援しているほか、行政も協力して実施する、幸区一体となって取り組む象徴的なイベントです。

## 郷土芸能を守り伝える

小向獅子舞保存委員会

【小向獅子舞保存委員会について】小向に伝わる獅子舞は、江戸時代から伝わる歴史ある伝統行事で、子どもからお年寄りまで参加して行われます。そのような獅子舞の維持・保存と公開をする団体です。

小向の獅子舞は、江戸時代、享保年間に小向に伝えられ、永く住民達により継承されてきました。しかし、第二次世界大戦で獅子舞の頭を焼失し、継承者の多くを失い、しばらく舞われることはありませんでした。昭和25年に郷土芸能であり、村の宝物として、また信仰の象徴として、永く受け継がれてきた「獅子舞」を復興させようという気運が村



一匹の獅子が舞う伝統芸能

で高まり、獅子復興委員会が46名で組織されました。

村民や有力者から浄財を募り、その資金で獅子頭を作成したそうです。また、復興委員会のメンバーで獅子舞を体験した者から、舞い・笛・太鼓などの指導を得て若い人に伝えたそうです。本来の舞いは約1時間ですが、現在は約25分にまとめています。

【団体から】「この獅子舞を通して、小向の皆さんが家族のあり方、高齢者の知恵、青少年の健全な成長など、色々な問題に関わるようになってもらいたいです。さらに、獅子舞を成功させる喜びや伝統行事に参加しているというステータスを感じてもらい、地域の発展に寄与してもらいたいです。」



## おわりに

かつての工場の跡地開発や高層住宅の増加などによって、幸区はこの10年ほどで、まちの風景も住む人も、大きく変化してきました。「幸区誕生40周年記念誌」は、幸区にお住まいの皆さまに、この地域についてあらためて気づき、考えていただくことを目的として大きな2つのテーマに基づいて制作しました。

1つ目は「幸区のこれまでを語り継ぐ」ということです。第2章では、この土地に人が住み始めたころから現在に至るまでの歴史について、史実に基づいた形でご紹介し、第3章では、この地域に住む、さまざまな世代の人々の思い出話などを、身近に感じられるような形でご紹介しました。

2つ目は「幸区の今を知り、これから(未来)を考える」ということです。第1章では、区民の皆さまが、この地域に対してどのような印象をお持ちなのか、アンケート調査を通じて浮かび上がらせ、現在の幸区像をご紹介しました。第5章では、そんな地域をより良くしたい、地域の交流を深めていきたいと活動している人々や団体をご紹介しました。区内の活動団体は非常に多く、誌面の都合上、掲載できなかった団体が数多くありましたが、掲載する団体については、それぞれ魅力的な取り組みをしていることから、さまざまな関係団体・機関にも協力していただきながら、編集委員会で議論を重ねてまいりました。

この記念誌をお読みになり、新しく幸区に住み始めた方には地域をもっと知るための“きっかけ”として、また、昔から住んでいる方には地域をあらためて見直すための“きっかけ”としていただきたいと思います。

さらに、この記念誌を読まれた一人一人が、幸区をかけがえのない故郷だと感じ、これまで幸区が少なくてきた姿を若い世代に伝え、新しい文化を創造して、少しでも暮らしやすい地域にしていくために、考え、行動する“きっかけ”となれば幸いです。また、そのことが次の世代に向けた、より良い幸区につながっていくのではないかと思います。

平成23年3月11日、東北地方で未曾有の大震災が起こりました。関東地方でも多くの影響があり、忘れてはならない出来事です。ここでは、安全に、そして安心して暮らせるようにと身近な地域で取り組んでいる活動をご紹介します。



### 町内会・自治会を中心に、災害時の的確な行動力を培う

自主防災組織

町内会・自治会では、ごみ集積場所の維持管理や公園などの清掃を行う「きれいなまちづくり」、広報紙などの回覧を行う「情報共有のまちづくり」、お祭りなどの地域行事を行う「ふれあいのあるまちづくり」などの、さまざまな活動があります。また、「安心して暮らせるまちづくり」を旨として、防犯パトロールを行ったり、商店街とともに暗い夜道を明るく照らしてくれる防犯灯(街灯)を設置し、維持管理もしています。さらに、「災害に強いまちづくり」を旨として、災害時に隣近所で助け合うために活動する自主防災組織についても、町内会・自治会の方が中心になっています。

幸区の自主防災組織としては、全ての町内会・自治会のほか、団地・マンションなど、それぞれの地域で、平成24年3月時点で70の組織が

活動しており、防災に対する啓発活動を行ったり、災害時には、情報の収集・伝達や消火活動、負傷者の応急手当や要援護者等の安否確認や避難支援、そして炊き出し等の給食活動など、さまざまな状況に対処できるように地域の学校や公園などで防災訓練を行い、的確な行動力を培っています。

幸区自主防災連絡協議会では、組織全体による防災訓練を年2回実施して、自主防災組織相互の協力体制を深めています。

災害などの非常時こそ、地域住民とともに的確な行動を取らなければなりません。普段からの訓練や、準備などが重要です。



消火器の使い方を分かります

### お互いに助け合える安全と安心の場づくりのために

避難所運営会議

災害後、被災者に安全と安心の場を提供し、避難者同士が助け合いながら、生活再建に向けた次の一歩を踏み出す場づくりを目指すために各学校等に避難所を指定し、それぞれの避難所運営会議がその運営にあたります。現在、幸区の避難所運営会議は、区内の全ての学校(小学校13校、中学校5校、高等学校2校、短期大学1校)と河原町団地内、幸区民も通うことから中原区の下河原小学校に組織されています。

避難所運営会議は、町内会・自治会の方々

や施設管理者、各学校PTAなどを中心にして、行政と連携をとりながら、非常時における避難所の運営・管理に関する活動を行います。

具体的には、災害が起こった後、避難所の開設、避難者の収容、食糧・飲料水や生活必需品の確保などの活動を行って、時間とともに急速に変化する状況に的確に対応しながら、避難者や関係機関・団体などが、本来の生活や業務に、早期に復帰できるよう、お互いに励まし・助け合う場づくりを目指して活動します。

その他にも、安全・安心に関わる団体をご紹介します。区民や地域団体を中心にして、行政とも連携しながら地域密着で活動しています。

- 【安全・安心まちづくり推進協議会】地域で発生する空き巣、ひったくり、放火などの犯罪等を防止できるようキャンペーンなどを通じ、安全で安心して暮らすことのできるまちを目指します。
- 【交通安全対策協議会】交通安全・交通事故防止運動などを交通安全週間などに合わせて行います。
- 【交通安全月会】家庭内での交通安全教育や地域住民への交通道徳の高揚に努めている会です。
- 【交通部長連絡会】地域での街頭指導、啓発活動による交通事故の減少を目指します。